市政記者各位

令和３年７月１２日
経済観光文化局文化財活用部

明光寺　国の登録有形文化財（建造物）登録へ

福岡市博多区吉塚三丁目に所在する明光寺の本堂ほか２件が、「造形の規範となっているもの、国土の歴史的景観に寄与しているもの」として令和３年７月１６日(金)に開催予定の国文化審議会文化財分科会（会長 佐藤信）から文部科学大臣に国登録有形文化財（建造物）に登録するよう答申される予定となっておりますのでお知らせします。

記

１	登録名称	明光寺本堂、霊屋(たまや)、禅堂(ぜんどう)（３件）
２	住　　所	福岡市博多区吉塚三丁目８番52号
３	建設年代	大正13年（本堂）、大正15年（霊屋）、江戸後期／明治43年移築（禅堂）
４	所 有 者	宗教法人 明光寺
５	概　　要	明光寺本堂・霊屋は、大正９(1920)年の火災で焼失した後に、木田保造の設計・施工により、木造が主流であった当時、火に強い建物として、鉄筋コンクリート造(RC造)で再建された。本堂は大正13(1924)年、霊屋は同15(1926)年に竣工し、伝統的な様式をRC造で再現した初期の寺院建築として高い歴史的価値がある。一方、禅堂は焼失を免れ、境内に残る江戸後期の木造建築物として、貴重である。

明光寺本堂　正面

【報道機関向け現地説明会を下記のとおり開催します】
日　　時：令和３年７月14日（水）１４時００分～１６時００分
開催場所：明光寺（福岡市博多区吉塚三丁目8番52号）
※現地取材を希望される方は、事前に必ず文化財活用課調査普及係までご連絡ください。

【問い合わせ先】
経済観光文化局文化財活用部文化財活用課　担当：松本・星野
TEL：092-711-4862（内線3832）FAX：092-733-5537

明光寺について

1　敷地の位置

明光寺（みょうこうじ）は、福岡市博多区吉塚に所在する。かつては博多の寺町（蓮池町のち上東町）にあったが［別添資料１：奥村玉欄『筑前名所図会』］、明治 38（1905）年に境内を国道（現・福岡市道千代今宿線、通称：明治通り）が貫通することになり、明治 43（1910）年に東へ 1.5 ㎞ほど離れた旧・筑紫郡堅粕（かたかす）村の現在地へ移転した。

2　由緒および沿革

大寶山（たいほうざん）と号する曹洞宗寺院である。永徳年間（1381-1383）に無雑融純（むぞうゆうじゅん）が開山したという。近世の明光寺は、福岡藩初代藩主黒田長政の継室・大涼院（栄姫）が開基となり、寛永 5（1628）年に生雄宗誕（しょうゆうそうたん）によって博多で中興開山された。筑前国内に末寺 7 ヶ寺を有し、慶安元（1648）年には二代藩主忠之から寺領 50 石を寄進された［青柳種信『筑前国続風土記拾遺』］。明光寺は、近世を通じて藩内の曹洞宗寺院を統制した僧録司（そうろくす）3 ヶ寺の一つであった。

大正 5（1916）年には曹洞宗務所（現・曹洞宗宗務庁）から認可僧堂の開設を許可され、現在の明光寺専門僧堂の基礎を築いた。

3　境内の建物［明光寺配置図参照］［写真 01］

明光寺境内は、敷地西側の道路際に開いた総門から延びる参道上に立つ山門を経て主要伽藍へ至る。山門の正面に本堂を構え、その北西側に霊屋が、その手前に禅堂が並ぶ。本堂の背後には納骨堂が、また南東側には玄関・庫裡・衆寮が配され、さらに庫裡の東側には庭を介して書院・客殿・茶室・土蔵等が並ぶ。

4　明光寺本堂［写真 02～06］

明光寺本堂は、境内のほぼ中央を通る参道の奥に位置し、南西に面して建つ。明光寺伽藍の中心堂宇である［写真 01］。旧本堂が大正 9（1920）年に焼失し、その規模（横 10 間×入 8 間）を踏襲して大正 13（1924）年に再建された［別添資料２～４］。鉄筋コンクリート（RC）造平屋建、桁行 5 間×梁行 3 間（実長 9 間半×7 間）の入母屋造桟瓦葺、平入で正面に向拝、背面に下屋（後堂）が付く［写真 02］。構造は、RC ラーメン構造である。小屋組は部材をアングルでリベット接合した鉄骨ダブルフィンクトラス、屋根はリブラス工法による［写真 03］。RC 造の躯体に砂漆喰の中塗、漆喰の上塗を施す。

明光寺本堂は、大正４（1915）年築の大谷派本願寺函館別院を嚆矢とする RC 造寺院本堂の初期の一例である。設計・施行は、函館別院をはじめ大正から昭和前期にかけて鉄筋コンクリート造建築を数多く手掛けた木田保造である。当時の棟札より、建設年代は大正 13（1924）年、施主は太田清蔵（1863‐1946）、工事監督は秋田喜造（？‐？）、設計は木田保造（1885‐1940）、施工者は木田組（のちの木田建業）であることが分かる［別添資料５］。曹洞宗寺院の伝統様式を鉄筋コンクリートで再現するにあたって、柱や組物などに工夫がみられる［写真 04～06］。構造は堅牢で、鉄筋の爆裂等がほとんどみられず施工精度が高く、特に左官技術は秀逸である。このように明光寺本堂は、わが国における鉄筋コンクリート建築の普及に重要な役割を果たした設計・施行者の手になり、寺院の伝統様式を耐火工法で実現した造形の規範と評価できる。

5　明光寺霊屋［写真 07～09］

明光寺霊屋は、本堂の北西（左）側に並び、正面を南東すなわち本堂側に向けて建つ。鉄筋コンクリート（RC）造平屋建で平入、桁行 5 間×梁行 3 間で入母屋造桟瓦葺である［写真 07～08］。花崗岩製化粧基壇の上に建ち、躯体は RC ラーメン構造をとり、小屋組は木造和小屋である。檀家の位牌を安置している［写真 09］。建築年代は、寺の記録から大正 15（1926）年である。設計および施工者は、本堂竣工直後に建てられ、また本堂と同様の構造をもつことなどから、木田保造と推測される。霊屋には、本堂と同様に RC 造で仏教寺院の伝統様式を再現するうえでの工夫や施工精度の高さ、また秀逸な左官技術などが認められる。さらに伽藍内での本堂と霊屋との一体性が高い。このように明光寺霊屋は、わが国における鉄筋コンクリート建築の普及に重要な役割を果たした設計・施行者の手になる可能性が高く、寺院の伝統様式を耐火工法で実現した造形の規範と評価できる。

6　明光寺禅堂［写真 10～12］

明光寺禅堂は、境内参道の左手に正面を南東（参道側）に向けて建つ。木造平屋建、桁行 4 間×梁行 5 間の入母屋造桟瓦葺、妻入りで正面に向拝が、背面に 1 間の下屋が付く［写真 10］。内部は土間で奥の部屋には壁に沿って畳敷の床を張り、坐禅の場として使用されていた。建築主は、十七世住職・万空鉄相（1656-1728）と考えられる。明治 43（1910）年に博多から現在地へ移築され、大正 5（1916）年の専門僧堂開設時に内部が、昭和 34（1959）年に下屋が改修された。旧来の本瓦葺から桟瓦葺への変更も、昭和 30 年代中頃と考えられる。なお、江戸後期の絵画資料［別添資料 1 ：奥村玉欄『筑前名所図会』］には明光寺の建造物が描かれており、移築前の姿をうかがうことができる。粽や台輪といった禅宗様の要素を多く取り入れ、また装飾を多く施した向拝により正面を強調した外観は端正である［写真 11～12］。このように明光寺禅堂は、当地域の歴史的景観に寄与している貴重な建造物と評価できる。

登録建物一覧

	名称	員数	構造形式	大きさ(㎡)	建築年代	基準
1	明光寺本堂 みょうこうじほんどう	1 棟	鉄筋コンクリート造平屋建 入母屋造（いりもやづくり） 桟瓦葺（さんがわらぶき）	236	大正13年 平成22年落縁改修	2
2	明光寺霊屋 みょうこうじたまや	1 棟	鉄筋コンクリート造平屋建 入母屋造（いりもやづくり） 桟瓦葺（さんがわらぶき）	122	大正15年 昭和37年頃銅板葺から桟瓦葺に改修	2
3	明光寺禅堂 みょうこうじぜんどう	1 棟	木造平屋建 入母屋造（いりもやづくり） 桟瓦葺（さんがわらぶき）	78	江戸後期 明治43年移築 昭和34年頃下屋内部改修及び本瓦葺から桟瓦葺へ葺替	1

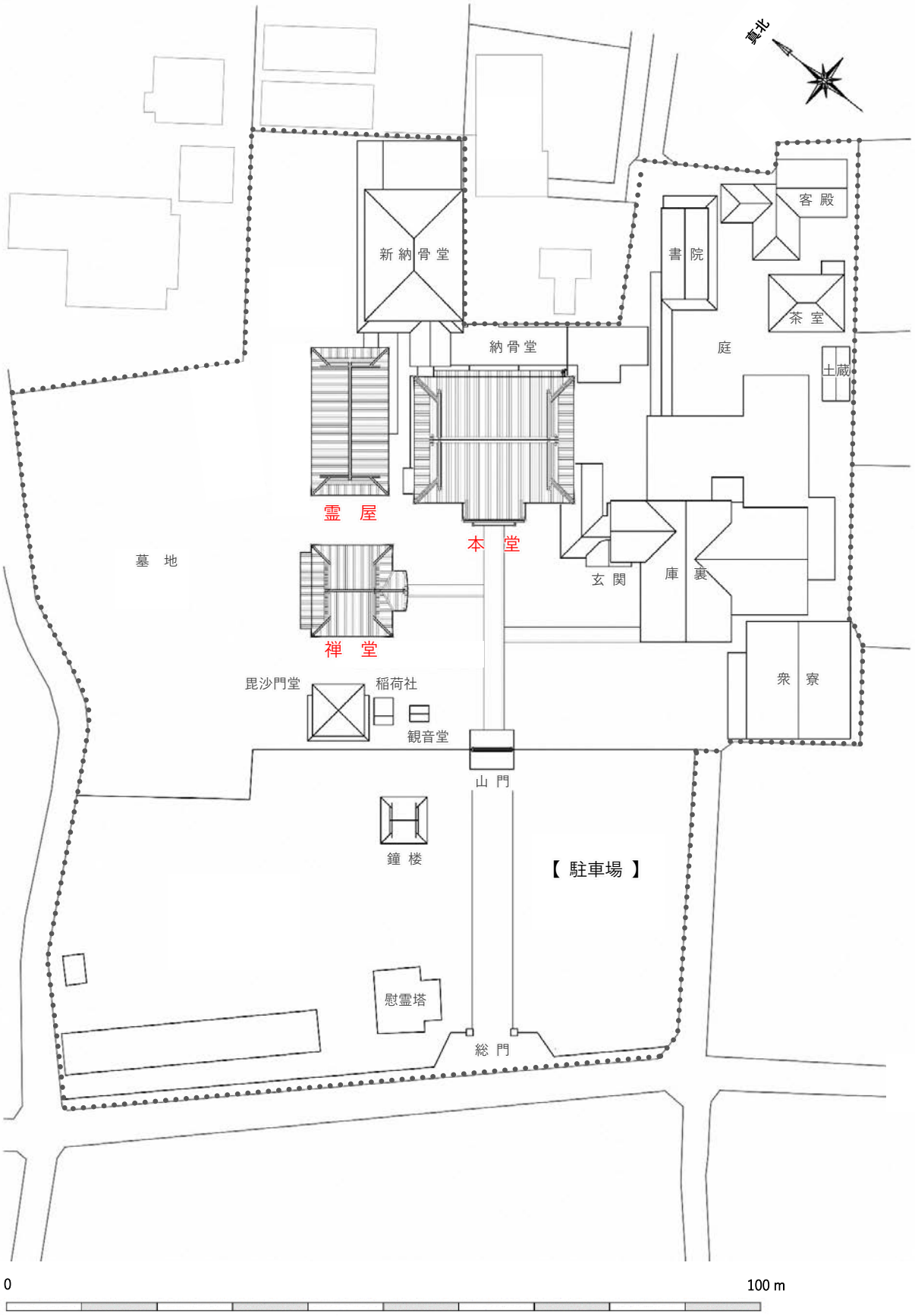
※　基準 1 とは、文化庁が示す登録基準のうち、「国土の歴史的景観に寄与するもの」

※　基準 2 とは、文化庁が示す登録基準のうち、「造形の規範となっているもの」を指す

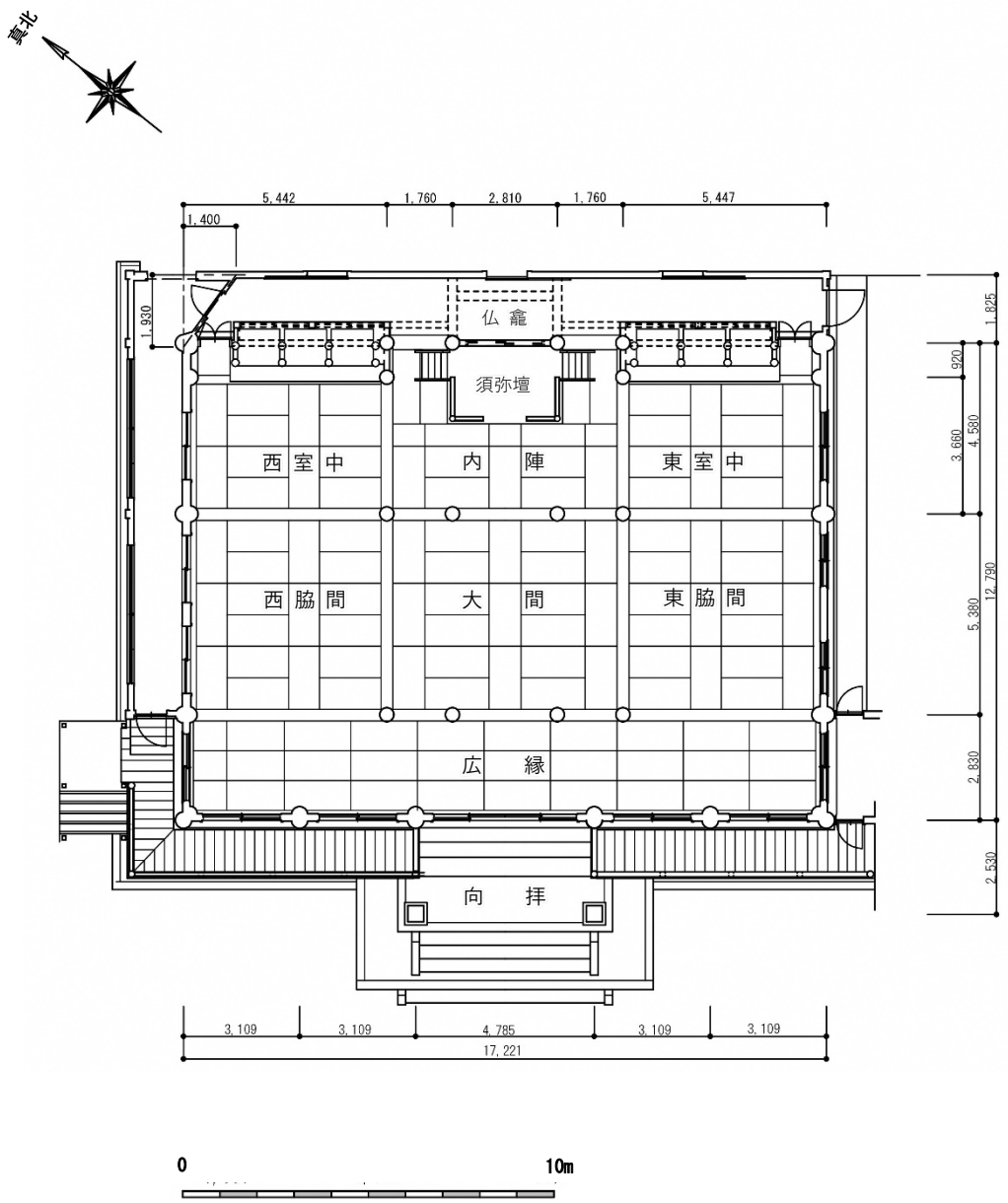
箱崎
箱崎駅
宮松
原田
東浜
千代
県庁
吉塚駅
社領
吉塚
吉塚小
明光寺
福岡空港
堅粕
豊
榎田
須崎町
中洲
博多駅

吉塚1
吉塚2
吉塚3
吉塚4
明光寺
駐車場
東光院
堅粕3
堅粕4

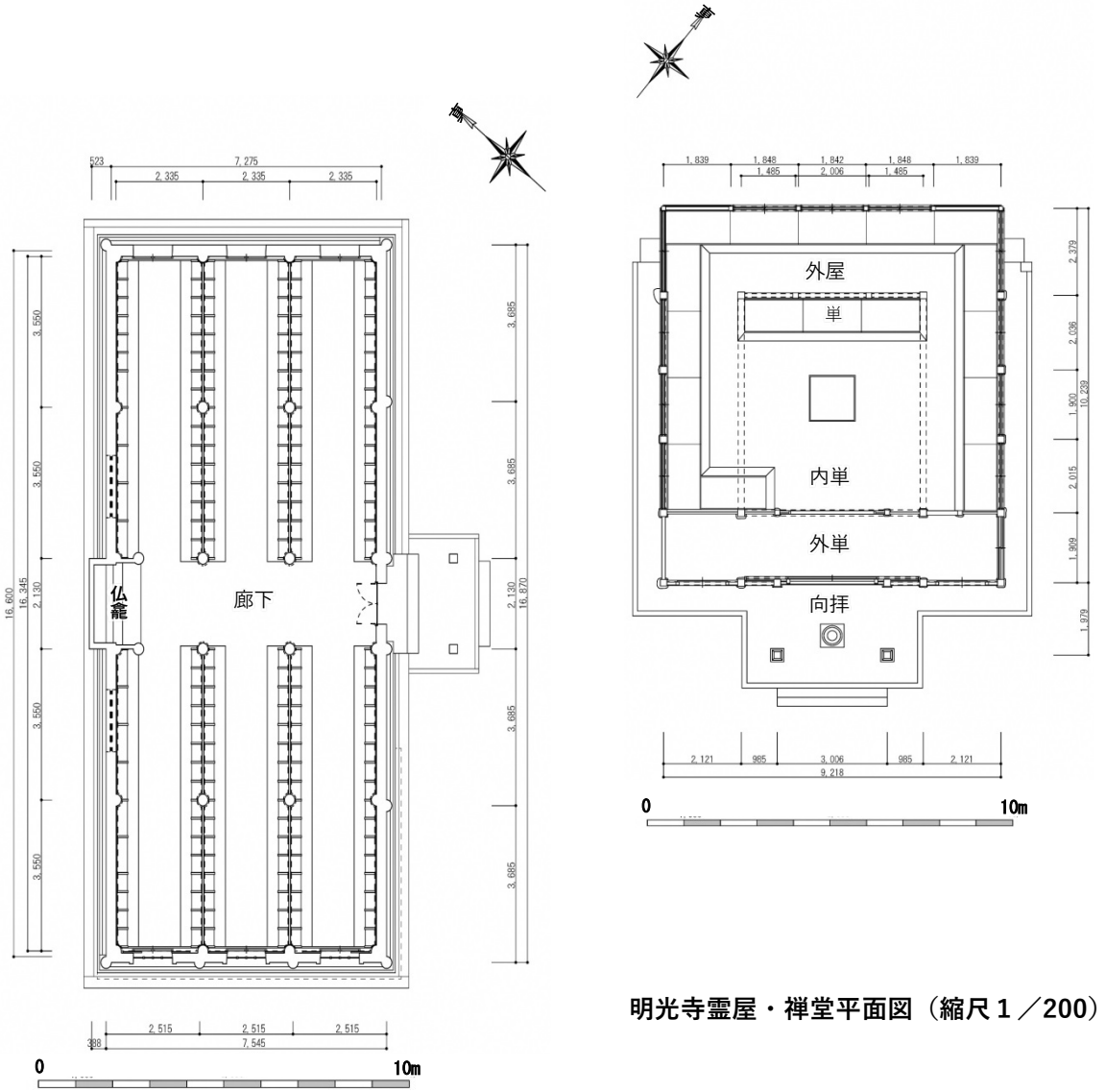
明光寺位置図


真北
新納骨堂
納骨堂
書院
客殿
茶室
庭
土蔵
霊屋
本堂
墓地
玄関
庫裏
禅堂
衆寮
毘沙門堂
稲荷社
観音堂
山門
鐘楼
【駐車場】
慰霊塔
総門
0
100 m

明光寺配置図



明光寺本堂平面図（縮尺１／200）



明光寺霊屋・禅堂平面図（縮尺１／200）

登録有形文化財（建造物）について

登録有形文化財制度は、国土開発や生活様式の変化などにより、文化財としての価値を評価されることなく消滅の危機に瀕している多くの歴史的建造物を後世に残していく目的で、平成 8 年に創設されました。重要なものを厳選し、許可制という強い規制で手厚く保護される従来の指定制度とは異なり、届出制と指導・助言等を基本とする緩やかな保護措置を講じるものです。また、事業展開や地域の活性化に積極的に利活用しながら、建物の魅力を国民にひろく知ってもらう制度です。

登録有形文化財建造物は、建築後 50 年を経過し、①国土の歴史的景観に寄与しているもの、②造形の規範となっているもの、③再現することが容易でないもののいずれかの基準を満たすものです。福岡市内には、今回登録される見込みの明光寺 3 棟のほか、43 棟の国登録有形文化財（建造物）があります。

写真 01

明光寺境内

主要伽藍の配置（南から）

細部まで施工精度の高い、初期鉄筋コンクリート造の本堂と霊屋。

境内に残る貴重な江戸後期の木造禅堂。

写真 02

明光寺本堂

南東妻面外観（南東から）

入母屋造桟瓦葺

構造は、RC ラーメン構造である。

外観軸組を鼠漆喰、壁面を白漆喰で塗り分ける。

外壁は厚みがあり、柱は断面正円ではなく、壁内外に突出した半円形の付柱状とする。

写真 03

明光寺本堂

小屋組内部

小屋組は部材をアングルでリベット接合した鉄骨ダブルフィンクトラス構造。

屋根はリブラス工法による。

写真 04

明光寺本堂

北西面妻飾り（西から）

妻飾りは前包の上に本蟇股をおき、二重虹梁を渡して格子窓を挟む。各虹梁の上には大瓶束をのせて棟木を支え、最上部には笈形を付ける。破風板の中央には蕪懸魚が付く。各部の絵様は、全体的に幅広で彫りが深い。

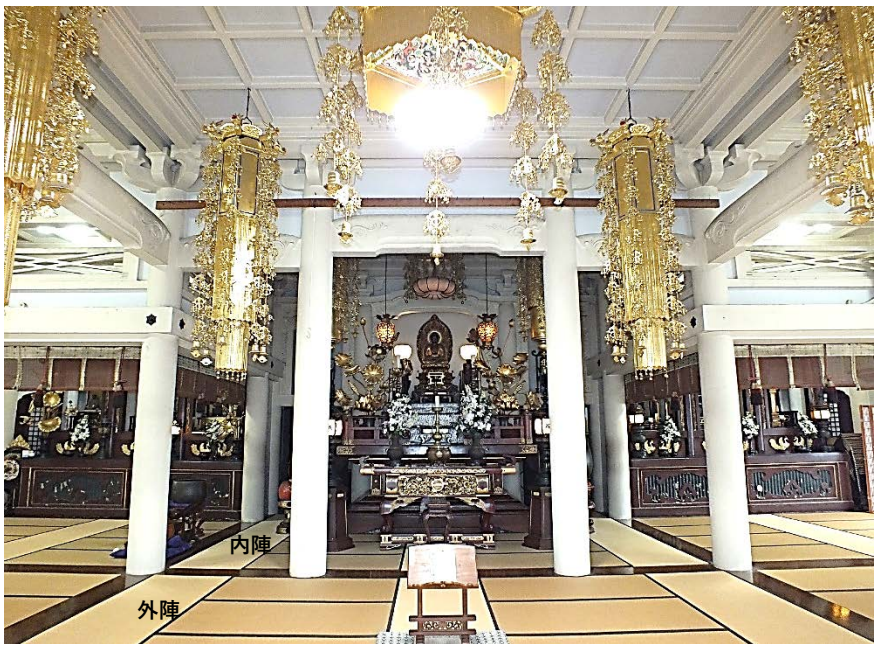


写真 05

明光寺本堂

大間および内陣内観（広縁から）

内部平面は、左右相称の六間取で、無目敷居で仕切られ段差がない一方、虹梁に高低差をつけ視線を内陣へ誘導する。さらに内陣を折上格天井、その他各室を格天井、広縁を竿縁天井として格差をつける。

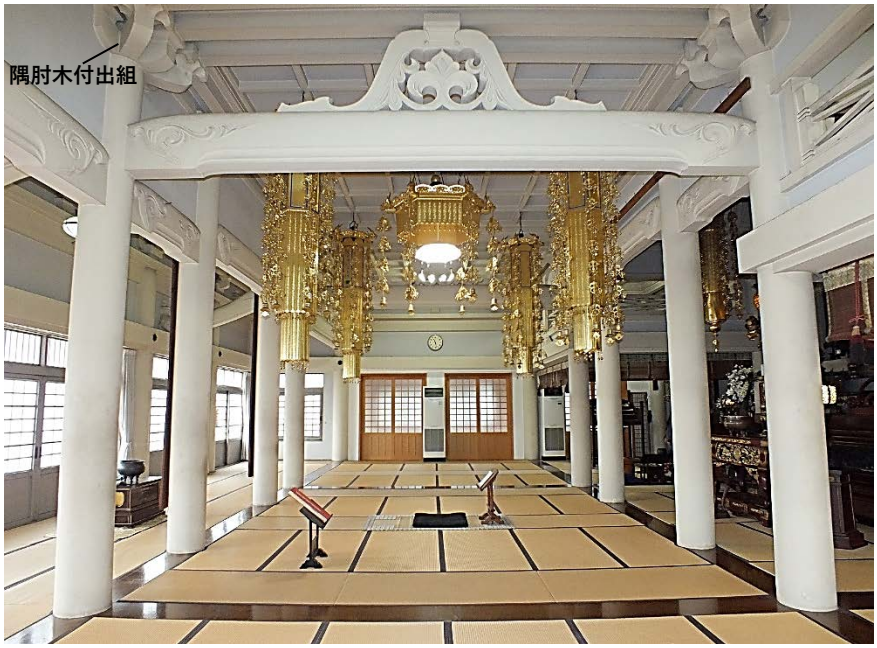


写真 06

明光寺本堂

外陣内観（東脇間から）

堂内における木材の使用は、須弥壇や両脇壇以外では格天井などに限られる。内部は、部材が乳白色、壁面が灰白色を呈する。隅肘木付出組をのせた円柱を立て梁や虹梁で繋ぎ、本蟇股または竹の節欄間をおく。

写真 07

明光寺霊屋

南側外観（南から）

本堂の北西に並び建つ位牌堂。

入母屋造桟瓦葺で、本堂と共に初期コンクリート造の様相を伝える。

躯体は RC ラーメン構造をとるが、小屋組は木造和小屋である。

写真 08

明光寺霊屋

南西面妻側外観（南西から）

側廻りは円柱に船肘木を載せ長押を廻し、両妻面三箇所の花頭窓を跨ぐ。

軒は、木芯にラスモルタルで成形した本繁垂木一軒である。妻飾りは木造で、木連格子を嵌めて破風板の中央に蕪懸魚を付ける

写真 09

明光寺霊屋

廊下内観（入口から）

内部は一室コンクリート土間。

総柱状に円柱を立て、虹梁形内法貫と頭貫を縦横に架ける。

部材や壁面には、砂漆喰の中塗りと漆喰の上塗が施される。室内全体が白色漆喰で仕上げられる一方、仏壇と位牌壇は木製で、黒・朱漆や金箔が施される。

写真 10

明光寺禅堂

正面外観（南東から）

本堂の西に建つ木造禅堂。

入母屋造桟瓦葺妻入りで、正面に向唐破風の向拝を付し、正面は中央に引違戸、両脇に花頭窓を開ける。

元来は坐禅を行う場所であった。

写真 11

明光寺禅堂

正面妻飾り（東から）

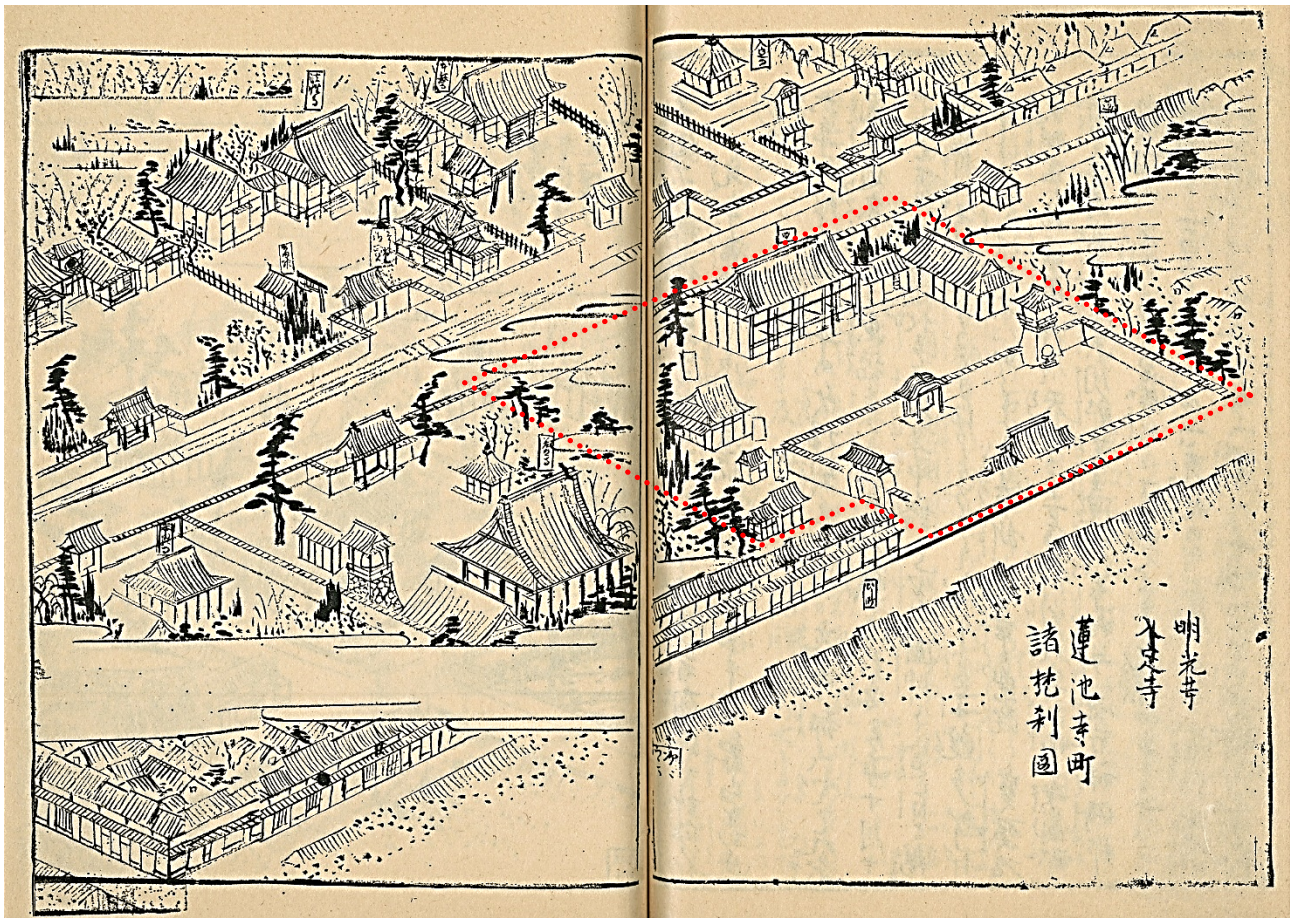
妻飾りには虹梁・笈形付大瓶束・蕪懸魚が付く一方、背面は竪羽目板張とする。

写真 12

明光寺禅堂

向拝外観（南東から）

向拝は、柱を二重の虹梁で繋いで出三斗をのせた大唐破風である。木鼻（波頭と雲文）、蟇股（霞に鶯宿梅）、兎毛通（雲間に鶴一対）、桁隠（雲間に駆馬）は写実的で、虹梁の絵様はそれぞれ異なる。



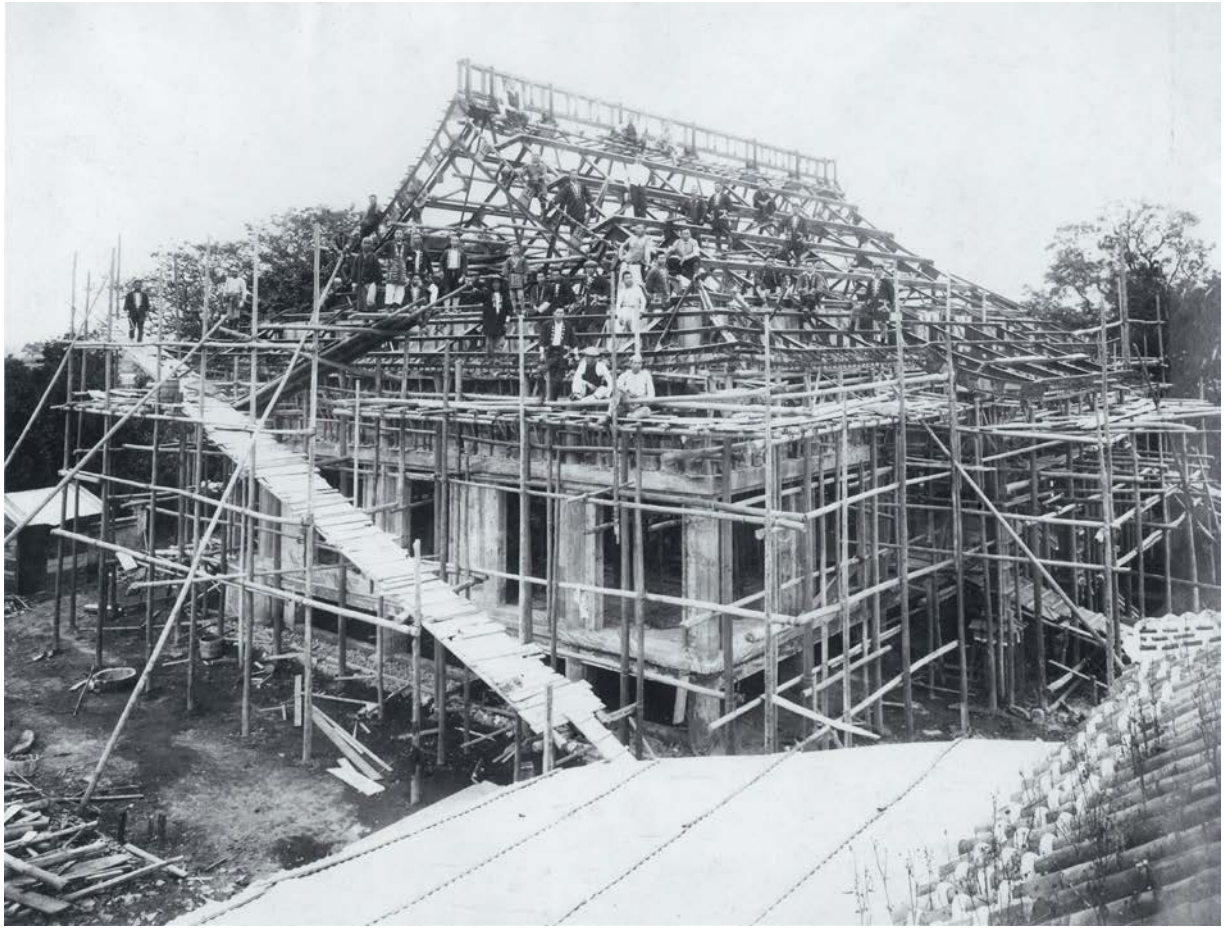
資料１　江戸後期の明光寺と博多蓮池町の諸寺（赤枠内、奥村玉蘭『筑前名所図会』巻の二より転載）

【福岡市博物館所蔵】

※資料１を紙面等で使用される場合はクレジット【福岡市博物館所蔵】をいれてください。

資料２　大正 13 年頃の明光寺境内（「明光禅寺本堂再建記念」絵葉書より転載）　【明光寺所蔵】

※資料２～５を紙面等で使用される場合はクレジット【明光寺所蔵】をいれてください。



資料３　明光寺本堂　建設工事の様子（明光寺所蔵アルバムより転載）　【明光寺所蔵】

資料４　大正 13 年竣工当時の本堂正面および西面外観（明光寺所蔵アルバムより転載）　【明光寺所蔵】

資料５　本堂棟札（上：表面，下：裏面）

扱　い
令和３年７月１６日　18：00 解禁　令和３年７月８日　14：00 投げ込み

報道発表

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

令和３年７月１６日

文化審議会の答申（登録有形文化財（建造物）の登録）について

文化審議会（会長　佐藤（さとう）　信（まこと））は，令和３年７月１６日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て，新たに２２０件の建造物を登録するよう文部科学大臣に答申しました。

この結果，官報告示を経て，登録有形文化財（建造物）は１３，２８６件となる予定です。

１．今回答申された登録有形文化財（建造物）の概要

	新規登録	累　計
登　録　件　数	２２０	１３，２８６
関係都道府県数	３５	４７
関係市町村(区)数	６５	９８９

○時　代　別　（件）

	江戸以前	明　治	大　正	昭　和	計
新規登録	３８	６７	５０	６５	２２０
累　計	２，３６６	４，２０９	２，７００	４，０１１	１３，２８６

○種　別　（件）

	産　業			交通	官公庁舎	学校	生活関連	文化福祉	住宅	宗教	治山治水	他	計
	1次	2次	3次										
新　規	0	34	22	7	2	13	1	21	70	37	13	0	220
累　計	118	1,411	1,665	518	235	406	337	441	5,920	1,927	223	85	13,286

（件）

	建　築　物	土木構造物	その他の工作物	計
新規登録	１７１	１４	３５	２２０
累　計	１０，５２８	６６３	２，０９５	１３，２８６

今回の答申における主なもの

① 国後島とのつながりを示す歴史的遺構

001 根室国後間海底電信線陸揚施設　北海道根室市　昭和１０年頃

根室と国後島を繋ぐ通信用海底ケーブルの陸揚施設。電信線は明治時代に逓信省が根室から国後島を経由して択捉島まで設営し、この建物は電話線開通頃の建設と考えられる。東西約３・８メートル、南北約５・９メートル、鉄筋コンクリート造平屋建で、南面中央を入口として半円柱を立てる。入口前方に門柱を付設。内部は２室で奥室に陸揚の床開口を残す。

② 北前船寄港地の繁栄を伝える近世町家

083 旧古川屋惣兵衛住宅　福井県小浜市　慶應元年

旧小浜城下で廻船業などを営んだ商家。通りに面した平入の町家で、木造二階建、切妻造桟瓦葺。正面一階に出格子を見せ、二階は真壁に格子窓を嵌め、両端に袖壁を備える。小浜に希少な江戸期に遡る町家の遺構で、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」を補強する。文化財保存活用地域計画による登録提案第１号。

③ 建築家吉田五十八の意匠が内外に遺憾なく発揮された邸宅

117 旧岸邸　静岡県御殿場市　昭和４４年

東名高速道路御殿場インター近くに構える岸信介の元邸宅。木造平屋建と鉄筋コンクリート造二階建からなる。居間・和室等よりなる庭に面した接客空間を中心に、サービス空間、二階の居住空間を配し、全体を「日本的コッテージ風」の外観でまとめ洗練された戦後の和風建築。吉田五十八晩年の代表作の一つ。

提供：御殿場市教育委員会

とはい村

④ クジラ型の噴水が愛らしい公園施設

118 道徳公園クジラ池噴水　愛知県名古屋市　昭和２年

あゆち潟と呼ばれた伊勢湾の一部、新田開発を経て昭和初期の土地区画整理で開かれた道徳地区にある公園施設。造形家後藤鍬五郎による鉄筋コンクリート造クジラ形噴水の設備を中心にし、石と擬木で池の護岸を巡らし、石製欄干付コンクリート橋を架ける。戦前から永く地域で愛される。

⑤ いちはやくセセッションをとりいれたモダンな戦前最大規模の庁舎

145 大阪府庁舎本館　大阪府大阪市　大正１５年

大阪城公園の西に位置する、鉄筋コンクリート造、地上６階地下１階建の庁舎。設計は後に名古屋市役所などを手掛けた平林金吾とその同僚であった岡本馨。背後に議会棟を張出すコの字形平面で、外観はセセッションを取入れ、玄関を縁取る装飾に意匠を凝らす。内部玄関ホールは大理石貼の３層吹抜に柱が林立し、見応えがある。正庁や議場も装飾豊潤。

提供：大阪府

⑥ 日向往還の宿場浜町における最大規模の町家

218 通潤酒造店舗及び主屋　熊本県山都町　明治前期

日向往還の浜町に長大な店舗を構える酒造店の町家。店舗背後に棟を直交させて主屋を接続し、正面に妻を見せる。店舗正面は下屋中央を切上げ戸口とし、２階は虫籠窓を開ける。内部は中央を店舗と主屋を貫く通り土間とし、東は店舗と倉庫、西は事務所とその奥に居室を設け、その広さは浜町最大規模の町家。熊本地震で被害を受けたがこれを乗り越えた。

＜担当＞　文化庁文化財第二課電話：03-5253-4111（代表）
課　　長　山下　信一郎
課長補佐　田井　祐子
登録部門　黒坂　貴裕，清永　洋平（内線 2797）
審議会係　川口　雅之，福島　絵里奈（内線 3160）

No	名称	所在地	建設年代	特徴など	種別		基準
207	明光寺本堂	福岡県福岡市	T13／H22改修	博多駅北東に位置する曹洞宗寺院。境内中央に本堂が建ち、北西に霊屋、西に禅堂を配す。本堂は、鉄筋コンクリート造、入母屋造り桟瓦葺き。細部まで施工精度の高い初期鉄筋コンクリート造の本堂。霊屋は鉄筋コンクリート造、入母屋造り桟瓦葺き。本堂と共に初期コンクリート造の様相を伝える。禅堂は入母屋造り桟瓦葺き妻入りで、正面に向唐破風の向拝を付す。境内に残る貴重な江戸後期の禅堂。	建築物	宗教	2
208	明光寺霊屋		T15／S37頃改修		建築物	宗教	2
209	明光寺禅堂		E後期／M43移築、T5・S34頃改修		建築物	宗教	1
210	梅林寺ティーハウス	福岡県久留米市	S33／H20	筑後川左岸高台の寺院外苑に建つ茶店。鉄筋コンクリート造平屋建て。丸柱と壁柱で屋根スラブと一体化した大梁を支え、特殊な架構で軽快なデザインを実現した菊竹清訓初期作品。	建築物	宗教	2
211	願正寺本堂	佐賀県佐賀市	元禄15(1702)／明和2(1765)改修	佐賀城跡北に位置する当地の中心的真宗寺院。境内中央に西寄りに本堂を建て、東側の中庭を囲うように貴賓室、大広間及び大玄関を配す。本堂の南東に鐘楼を建て、境内南辺に山門を開く。本堂は正面九間、奥行八間半、入母屋造り本瓦葺き。九州有数の規模と古さを持つ。貴賓室は切妻造り桟瓦葺き、簡素ながら上質な藩主御成間（おなりのま）と伝わる書院。大広間は南北に長大な平面を持ち、小屋組にキングポストトラスを用い大空間を実現。大玄関は切妻造り桟瓦葺き。無柱の大空間が特徴。鐘楼は入母屋造り本瓦葺き。佐賀城下の時鐘として用いられたと伝わる。山門は四脚門（しきゃくもん）で透彫（すかしぼり）や鈒金具（かざりかなぐ）など随所に浄土真宗寺院らしい華やかな装飾を見せる。	建築物	宗教	2
212	願正寺貴賓室		18世紀前期		建築物	宗教	2
213	願正寺大広間		S9		建築物	宗教	1
214	願正寺大玄関		S9		建築物	宗教	1
215	願正寺鐘楼		明和5(1768)		建築物	宗教	1
216	願正寺山門		T前期		工作物	宗教	2
217	旧枝梅（えだうめ）酒造主屋	佐賀県佐賀市	E末期／H30改修	旧長崎街道に南面する造り酒屋の町家。二階建ての寄棟造り桟瓦葺き平入りで背後に棟を延ばし、全体にコの字の屋根。佐賀特有のくど造の様相を伝え、建ちが低く全体に古式を残す。	建築物	産業2次	1
218	通潤酒造店舗及び主屋	熊本県上益城郡山都町	M前期／S10代・同30代後半・H30改修	日向往還浜町宿に位置し通りに面する町家。寄棟造りの店舗背後に棟を直交させて主屋を接続し正面に妻を見せる。宿場最大規模の町家。	建築物	産業2次	1
219	旧宮崎農工銀行（宮崎県庁5号館）	宮崎県宮崎市	S元／R2移築	県庁舎本館の向かいに建つ旧宮崎農工銀行社屋。鉄筋コンクリート造二階建て、外観は端正な意匠の銀行建築で、内部は吹抜にギャラリーを廻し、イオニア式の柱頭を飾る。	建築物	官公庁舎	2
220	旧山（さん）尋常高等小学校校舎	鹿児島県大島郡徳之島町	S4	徳之島北東部に位置。鉄筋コンクリート造二階建て。外観は隅の柱型を見せ、入口に庇を付し、壁面は等間隔に横目地を切る。島内現存最古の鉄筋コンクリート造学校建築。	建築物	学校	2

注

建設年代：Eは江戸、Mは明治、Tは大正、Sは昭和、Hは平成、Rは令和の略。

種別：土木は土木構造物、工作物はその他工作物の略。

基準：1は国土の歴史的景観に寄与しているもの、2は造形の規範となっているもの、3は再現することが容易でないもの。